

ここで仕事があるかどうかだっけ？ 仕事についている。メカニックだ。それじゃ始めるか。私の話に出てくるのは、金持ちのスルタンと、妻がいる貧しい男だ。

さてこの妻、貧しい男の妻は夫に言った。

「もう貧しすぎてこういう暮らしには耐えられません。二人とも働いていないから、二人で田舎に行って何かを栽培する方がいいでしょう。もうここに一年ほどいるから、二人でじっとしているよりも、何か食べるものが見つかるでしょう」。

彼らは田舎に耕しに行き、植えた。植え終えた時に妻が夫に行った。

「私が植えたものを見張りをしている間、あなたは町に下りていって仕事を探した方がいいでしょう」。

夫は町に行って、町と雇い主たちをよく知っている友人を探した。彼は友人に、賃仕事を探していると言った。一方、妻の方は、植えたものに水をやるために畑に残った。夫が仕事を探しに町に行っている間。仕事が見つかり、雇い主が夫に、何が出来るのかを尋ね、彼は料理が出来ると答えた。

仕事に就いた日に、仲間たちが彼に名前を聞いたので、彼は「ムフォマ・ムジ[村のスルタン]だ」と答えた。雇い主が、名前を聞いたので、彼は「マツウオ[目]です」と答えた。そして彼は働き始めた。

ひと月、ふた月が経ったが彼は給料をもらえなかった。彼は主人に給料を払うよう頼んだが、主人が答えるには、自分も払ってもらってないのだから、彼にも払わないということだった。彼は言った。

「我々の間の契約はそういうものではなかったが」。

すると主人は言った。

「少し待ってくれ」。

この主人には息子がいたが、この子は男が台所で食事の支度をしている時に邪魔をしに来ていた。男は或る日、その子に言った。

「待っている、今にわかるから。お前は私の邪魔をするが、私はお前に迷惑をかけてやる」。

男は食事の用意を終え、それを給仕した。そこで子供が言った。

「今日のご飯はとてもおいしい」。

すると母親が言った。

「食べ過ぎてはいけませんよ。後でお腹を痛くするから」。

夜になって彼らは眠りに行った。そこで男は部屋に入り込み、子供を叩いた。子供は泣いて母親が言った。

「食べすぎてはいけないと言ったのに、言うことを聞かないから」。

男は子供を叩き続けた。母親は様子を見ようと起きたところ、男が子供を叩いているのを見つけた。そこで彼女は叫んで父親を呼んだ。父親が来て、男を捕まえようとしたが彼は逃げた。子供の父親は叫んで、使用人たちにマツウオ[目]を捕まえる[＝目を閉じる]よう命じた。そこで、中庭にいた使用人たちは皆な目を閉じた。その間に男は逃げてしまった。

主人は使用人に、どうしてマツウオを捕まえなかったのかを聞いたが、彼らは、自分たちの目[マツウオ]をつぶり[捕まえ]ました、と答えた。主人は、今出て行ったマツウオを捕まえろと言ったのだと言い、彼らは答えた。

「あの男は「村のスルタン」という名前だと言っていました。あなたにはマツウオだと名乗っていたのですね」。

件の男は田舎に戻り、妻に会った。彼の妻は尋ねた。

「ところであなたはふた月働いたわけだけど、給料はどうなったのですか？」。

彼は答えた。

「払ってもらえなかったし、結局は悩みの種だった主人の子供を叩くことにした」。

妻は言った。

「私たちの畑仕事に戻りましょう」。

彼らは百姓仕事を続け、一年、二年経って収穫が始まり、三年目には彼らは金持ちになっていた。彼らは男の家に戻り、未払いの二ヶ月分の給料をもらいに、かつての雇い主のところに行ったが、主人は犬をけしかけで追い払い、犬たちは夫婦の足に噛み付いた。

私の話はこれでおしまい。他の話がないかって？